

こども・若者意見聴取

当事者ヒアリング参加者の声(一覧)

I.	こども・若者意見聴取.....	2
1.	第1回 こども・若者意見聴取.....	2
2.	第2回 こども・若者意見聴取.....	4
II.	当事者ヒアリング.....	6
1.	実施概要.....	6
2.	学校、地域、生活の場などを通じて情報や参画機会を提供することが困難なこども・若者.....	8
(1)	不登校のこども/いじめを受けるまたは受けたことがあるこども.....	8
(2)	中退した若者.....	10
(3)	ヤングケアラー.....	14
(4)	アクセスの難しい地域に住むこども・若者.....	16
3.	意見表明の手法の選択肢が限られていることから受け止める側も聞くための工夫が特に必要なこども・若者.....	17
(1)	障害児.....	17
(2)	医療的ケア児.....	19
(3)	外国人のこども・若者.....	20
4.	意見を言うことが安全・安心でないなど、意見を言う環境に特別な配慮や工夫が必要なこども・若者.....	22
(1)	社会的擁護の下で暮らすこども、社会的擁護経験者/経済的に困難な家庭のこども・若者/虐待を受ける、または受けたことがあるこども・若者.....	22
(2)	性的マイノリティのこども・若者.....	25
5.	言葉だけではなく、年齢及び発達段階に応じて、その意思(思いや願い)が多様な形で表れ、受け止める側も聴くための工夫が特に必要な乳幼児.....	28

I. こども・若者意見聴取

1. 第1回 こども・若者意見聴取

【実施概要】

- 実施日:2023年10月13日
- 実施方法:オンライン
- こども・若者の参加人数:4名

【参加者の声】

<表紙・内容ページについて>

- Bがよかったです。理由はAは女子っぽい、かわいいかんじ
- 個人的にAが好き
- 私はA案のように真ん中にタイトルがあることで、どんなことを示しているのかわかりやすいと感じました！
- Cは少し子供っぽいかなと思いました
- A案が一番みてもらえると思う、みやすい
- Cのフォントがやや固めかな、と思います。でも内容ページのデザインはCがすきです。
- 文字が入っている部分では、B案のものが明るいと感ずるため、この後読み進めていきやすいと感じました。
- 中学生でもフォントが優しい感じのほうが読む気になる気がしました
- 筑紫A丸ゴシックのようなフォントが個人的に好きなのでA,Bがいい感じに見える

<多様な人に読んでもらうために>

- Bは様々な年代の人にあっているデザインだと感じました
- 性別問わず、というところでいうと、緑、黄色がいいと思うので色遣いはB案がいいと思いました。
- Bの案が、いろいろな年齢や性別問わず読みたいと感じると思いました。
- ただ、下の題名が読みづらいので、もう少し読みやすい字体の方が良いと感じました。

<公開形式>

- (話は逸れるのですが、資料はPDF版だけではなく、HTML版(Web)も作ってほしいです。PDFはコピーや本文検索が行いにくいことや、スマホでは画面サイズ的な理由からPDFはとても見にくいなと思います。)
- (HTMLならソフトに読み上げしやすくなったり、翻訳などがしやすい)
(他にもふりがなをオンオフにできるメリットもある)
- Web版もあるのであれば、紙版上にQRコードなどをつけるのもいいかもしれません

ね。しかも HTML 版はスマホで読めるかたちでお願いしたいです。

- (スマホでみることが)多いと思います

<内容、目次など>

- 2ページ目がないようですが、はじめに、の前に目次を入れたほうが全体的にどんなことが書いてあるかわかるのでいいとおもいます。
- 目次のページにもう少し内容が想像できる情報があるといいと思いました

<文字量>

- 文字量はこれくらいがよいと思います。
- 2ページ目くらいの分量であれば読みやすいと感じました
- 本文も同じようなレイアウトですか？(文字の大きさやフォントの種類)
→B 案の作成例を見せて・・
- 個人的がデザインするなら見出しが筑紫 A 丸ゴシックのようなフォントを、本文はゴシック体を使うような気がする➡見出しはポップな感じが好みです
- 個人的な好みのゴシック体は AXIS Font です。シンプルでしっかりしているし堅苦しくない感じ

<その他>

- 過去の報告書みましたが、漫画チックな感じがしました。いっそストーリーを持たせて漫画にしちゃうってのはどうでしょうか？
- 漫画案ですが、調査結果がまとまってから作ると時間がないかもしれませんが、調査概要の部分だけなら漫画にする時間もあるのかな、とおもいました。

2. 第2回 こども・若者意見聴取

【概要】

- 実施日:2024年1月17日
- 実施方法:オンライン
- こども・若者の参加人数:3名

【参加者の声】

<概要版について>

- 本とか嫌いな人が読まないと思います。わからなくなったら、やめちゃう人もいそう
- 中学生なら、大丈夫だと思うけど、わからない単語もあるので、説明を入れた方がよい
- 14ページがよい、15ページだとオレンジの中に文字があって読みづらいかも、13ページは大事なことが何かわかりにくい
- 15ページがみやすい。こどもの意見が大切にされていると感じる
- 色味は見やすい。青や緑やオレンジの色々な色が使われていてよい(例えばデザイン版 P17)
- (中学生や大人が読むと考えると)全体で 40 ページは多すぎる。20 ページくらいがよいのでは？
- 各ページはもっと軽い内容の方がいい。文章を詰めこみすぎている印象がある。
- こども・若者へのアクセス・募集や告知は、最近の若者が使うツール(TikTok とかインスタグラムのリール)で広告するのが良いと思う(概要版 P26・P27)

<やさしい版について>

- わからないな、という言葉、内容があるので、できるだけ多く入れるとよい
- 例:マイノリティってなんですか…？
- わからないものもある、なんとなくわかって読むと、逆効果なんじゃないか。
- 文字が多いと思う、ページ数を増やしても、スペースをあけた方がよい。
- なぜ声をきかれにくいのか、伝わりにくい
- 声をきかれにくい人がよむと、例がかいてあるので、自分がどういうわかるので、読みやすい。
- 声をきかれにくい、と書くと余計意見を言いにくくなるのでは
- これを声をきかれにくいこども・若者が読むのかどうか気になった
- 伝えたい、重要である、ところがわかるようにした方がよい
- 3ページが文字が多い
- フォント、大きいもの小さいものを分けた方がよい
- 4ページ以上は増やさない方がよいと思う
- 内容はわかりやすいと思う

- アドボケイトについても触れたほうがよい(例えば、アドボケイトが学校に来てくれると
言いやすい、というような内容)
- カラフルで柄が可愛く、絵本のように持ち歩けていい

<多様な人に読んでもらうために>

- 何を言いたいか、もう少しくわしく書いた方がよい
- 4ページ目だと、自分で思う人は直すけど、直さない人もいるのでは
- スマホを持っていない人は読めない。紙で印刷してくばった方がよいのは
- ホームページにあげるだけでなく、インターネットで広くみられるようにしたらよい、た
とえば、youtube で動画を出すというのもよいのでは
- こどもだけでなく、大人もよんだ方がよいと思う
- 低学年の意見もとりにれた方がよい
- やさしい版を、手に取ってもらうための「導入版」の位置づけにして、概要版を詳しく知
りたい人のための「詳しい版」位置づけにした方がよい

II. 当事者ヒアリング

1. 実施概要

カテゴリー	属性	協力団体	参加者	ヒアリング方法 /実施日
①学校、地域、生活の場などを通じて情報や参画機会を提供することが困難な子ども・若者	不登校の子ども /いじめを受ける、または受けたことがある子ども	ぼくるーむ	グループ A ・年齢不詳 1名(当事者) ・20代後半 1名(当事者) ・施設職員 2名(同席者) グループ B ・小学生 1名(当事者) ・中学生 1名(当事者) ・20代後半 1名(当事者) ・施設職員 1名(同席者)	対面(グループヒアリング 2グループで実施) /10月13日
	中退した若者	さいたまユースサポートネット(若者自立支援ルーム)	・20代前半 1名(当事者) ・20代前半 1名(当事者) ・施設職員 1名(同席者)	対面(グループヒアリング) /9月22日
	ヤングケアラー	一般社団法人ヤングケアラー協会	・20代前半 1名(当事者) ・20代後半 1名(当事者) ・高校生世代 1名(当事者) ・ヤングケアラー協会職員 1名(同席者)	オンライン(グループヒアリング) /8月29日
	アクセスの難しい地域に住む子ども・若者		・高校生世代 1名(当事者)	オンライン(個別ヒアリング) /10月31日
②意見表明の手法の選択肢が限られていることから受け止める側も聞くための工夫が特に	障害児	社会福祉法人麦の子会	・小学生 1名(当事者) ・中学生 1名(当事者) ・施設職員2名(同席者) ・親御様1名(同席者)	対面(グループヒアリング) /9月8日
	医療的ケア児	はぐむのあかりクリニック、にこりステーション、NPO	・8歳 1名(当事者) ・6歳 1名(当事者) ・9歳 2名(当事者) ・訪問先のご家族(同席者)	対面・オンライン(個別ヒアリング) /11月2日

必要なこども・若者		法人にこりの訪問診療先のご家族	・施設職員(同席者)	
	外国人のこども・若者	一般財団法人杉並区交流協会	・中学生 1名(当事者) ・中学生 1名(当事者) ・杉並区交流協会職員(翻訳等で一時的に同席)	対面(グループヒアリング) /8月24日
③意見を言うことが安全・安心でないなど、意見を言う環境に特別な配慮や工夫が必要なこども・若者	社会的養護の下で暮らすこども、社会的養護経験者	社会福祉法人生活クラブ(ちばアフターケアステーション)	・20代前半 1名(当事者) ・施設職員 1名(同席者)	対面(個別ヒアリング) /10月10日
	性的マイノリティのこども・若者	一般社団法人にじーず	・高校生世代 1名(当事者) ・高校生世代 1名(当事者) ・職員 2名(同席者、当事者)	対面(グループヒアリング) /8月27日
④乳幼児期のこども(0歳、概ね1歳~3歳未満の幼児、概ね3歳以上の幼児)	乳幼児期のこども(0歳、概ね1歳~3歳未満の幼児、概ね3歳以上の幼児)	社会福祉法人龍美(陽だまりの丘保育園)	・幼児(5歳) 6名(当事者)	対面(グループヒアリング) /10月3日

2. 学校、地域、生活の場などを通じて情報や参画機会を提供することが困難な子ども・若者

(1) 不登校の子ども/いじめを受けるまたは受けたことがある子ども

【意見表明の体験】

- (支援者の施設)で、イベントをやるときに「こうしたらよい」などは話す。(20代後半)
- 自分はあまり意見を言うことはないが、●●(支援者の施設)では、自分の気持ちを話したりすることはある。(中学生世代)
- (支援者の施設)と学校だと目的が違う。学校って、「勉強をする場所」。●●(支援者の施設)は「お堅い感じじゃない」一緒に遊んだり、お話ししたり、イベントしたり。そういうのは流れて仲良くなる。(中学生世代)
- (支援者の施設)のスタッフたちも、だんだん話していくうちに、みんな優しいってわかったので、話せるようになった。はじめての人と話すときにも、●●(支援者の施設)の人が一緒にいることで話しやすくなる。(小学生)
- 学校が悪いわけじゃないけど、勉強しているだけじゃ仲良くなならない。先生は「教える人」で、生徒は「教えられる人」。一緒に何かをやる相手じゃない。ただ、先生にもよる。人間性だと思う。言っても何もしない人もいる。そういうのだとなおさら言い出せなくなる。言っても無駄だなあ、と思う。(中学生世代)
- 先生は少ないのに対して、児童はたくさんいる。先生と関わりを持ちたいと思う児童がいれば、その児童は意見を言える。先生と授業外に関わりあいを持ちたがらない児童もいる。私はそっち側(後者)の人間なので、授業中にもあんまり発言もしないし、授業外に話すこともない。(中学生世代)
- 授業の中で少しでもコミュニケーションをとってれば、他のことも話しやすくなるかもしれないけど、授業中に発言したりするのが好き、得意な子どもばかりではない。(中学生世代)
- 立場や価値観が違うといいづらく感じた。大人対子どもだけでなく子ども同士でも意見を言いづらい経験がある。立場だけでなく、意見をはっきり言う人・濁して言う人のような価値観が違うことも影響する(20代後半)
- 小学生の頃は、家庭が複雑な状況だったので、家庭内でも意見をいいづらかった。誰にも相談しなかった(20代後半)

【聴く側の体制や場所、環境】

- (支援者の施設)は、自由。大人の方と子どもとの距離が近い。よく話すし。何か思っても話しやすい。(中学生世代)
- 一人で話すのは、勇気がいる。代表しなければならぬので荷が重い。同じ境遇の人達と一緒に話せると気が楽になる。(20代後半)
- 学校というコミュニティでは意見を言うタイプの生徒はマイノリティになるため逆に意見

を言いづらくなっていた(20代後半)

- みんながいるところで話すときは、「なんて言われるかな」って考えちゃう。きちんとした意見を言わないといけないと思ってしまう(20代後半)
-
- 【どのような方法(オンライン/対面ヒアリング、チャットなど)や問いかけがよいか】
- (会って話す方がよいか、LINE などメッセージのやりとりの方がよいかという質問に対し、)顔を合わすのが苦手っていう子もいると思うし、その場合はメッセージの方が合うということももいると思う。メッセージだと、すぐ話すのではなく、考えてから打つことができるし、打った文が納得いかなかったら消すこともできる。対面で話したりするのが得意という子は、メッセージよりも対面の方が好きだと思う。人による。(中学生世代)
- (行政に相談するときでも、相手が知らない人であっても、LINE であれば言いやすいのかという質問に対し、)誰にも連絡できないときがある(眠れないよ、とか)。そういうときは(匿名で)いつでも連絡できる先があるのは安心する(中学生世代)
- (想いや気持ちを誰かに伝えるとしたら、どのような方法が言いやすいかという質問に対し、)スライドみたいなものを作ってわかりやすく説明するのがよいと思う。難しい内容でも、スライドだと、書いてあることをポチポチと押していだけで発表できるので、緊張せずに話せる。アニメーションは、面白くてよい。遊びがあったほうがよい。(母補足:学校で SDGs についてスライドをつくる授業をちょうどやっている)(小学生)
- 一方、言葉で話すともう 1 回説明しないとけないけど、文章で書いてあると何度も読み返すことができるとよい。資料があるのはよい。(小学生)
- 気持ちを話すときでも、論理的に説明できないような気がして話しにくい。もっと気軽に発言にできるとよいが、それだけの関係性がないと気持ちは言いにくい。(20代後半)
- 話しているときに、途中でいろいろ言われると話すのがイヤ。言いたいのはそれじゃないのに、という気持ちになる。(小学生)

【その他気を付けてほしいこと】

- 意見をいづらい人が、意見を言うためには、場づくりが必要。意見を言ってくださいといっても意見は言えない。意見を言うのは、目的をもって行動しているとき。●●(支援者の施設)は、イベントを一緒にやったり、大人と子どもが同じ目的で動いている(20代後半)
- 行政の人だけで全部考えてしまって最後に意見を聴かれても「あーそうですか」としかならない。最初から「こういうことを悩んでいる、どうしたらいいと思う?」という時点で意見を聴いてほしい。(20代後半)

【問題意識を持っていること】

- 不登校経験者は、就職の選択肢が少ない、などの問題提起をしていけるとよい(20代

後半)

- (学校が合わない子ども、学校で先生と話すのが好きじゃない子どもの意見を聴くにはどうしたらよいか?という質問に対し、)学校だと、そもそも時間がない。先生と過ごす時間は勉強がほとんどなので、難しいと思う(中学生世代)
- (大人や社会のルールのおかしいところという質問に対し、)自分がやれていないくせに、子どもにやれてというのがおかしいと思う。モノを乱暴に扱うなって言うけど、ママだってイライラしているときあるじゃん(小学生)
- 仕組みから変えていかないといけない。結果を出さないと話を聴いてくれない。学校の勉強で「成績がよい」という人じゃないと話を聴いてくれないと感じる。誰が発言してるのか、「肩書」を重視する社会であると思う。私も30代になって「若者」でなくなったら、若者について語るという意味で話を聴いてくれなくなると危機感を感じている。(20代後半)
- ●●(支援者の施設)はルールが無く、伸び伸びできる。言いたいことを言えるようになるにはこういった環境が必要。大人たちがルールを守るように教えてきた結果、押し付けのルールが子どもにも伝わってしまっている。(当事者の母親)

(2) 中退した若者

【意見表明の体験】

- 家で話をしたときは、おじいちゃんおばあちゃんは、古い考えがあるから意見が上手く伝わらないことが多い(家電の話など)。やはり、新しい情報を入れたがらないからのように感じる(20代前半)
- 「意見の言はずらさ」は常に感じていて、子どもだけの場であれば意見を言いやすいが、大人がいる場面では言いにくい。なぜなら、大人は何もしてくれない上に、「子どもが何言ってんだ?」「こどものくせに」と、自分が正しいみたいなスタンスでいるから。(20代前半)
- 大人は、「自分が正しい」から、そもそも相手を理解する必要がないと思っているのではないか。自分が正しいと思っていたことが壊れるのが怖いのもかもしれないが、それ(怖がること自体)は悪いことではないと思う。(20代前半)
- SNS上で意見を言うと、理解というプロセスを経ずに結論を考える人が多く不思議に思う。ネットは匿名性であることもあり、素直な意見ではなく、ひねくれた意見の感じがする(20代前半)
- (SNSなどのネット上で)なにか言ったら、ほとんどの場合、攻撃性のあるカウンターが来る(20代前半)
- 頭髪検査や男女不平等な服装指導など、高校の校則が厳しかった。これに対して、誰も言ってくれないし、言わないと自分が自分でいられなくなる、自分がつぶされると感じるから、意見を言っていた。言わざるを得ないという感覚であった。(20代前半)

【聴く側の体制や場所、環境】

- (相手が知っている人かどうかで、意見の言いずらは変わるのかという質問に対し)自分は気にならない。初対面でも言いたいことははっきりという(20代前半)
- 仲の良い人には、少し言いにくいとも言えるが、初対面の人にはあまり踏み込んで意見を言えない(20代前半)
- 自分の背景や状態をよく知ってくれているお母さんや仲の良い友達には意見を伝えやすい(20代前半)
- (初めて会う行政職員が話を聞いたとしても、意見を言えるか、という問いに対して)相手が社会に馴染めない人のために支援をしている人であれば、味方をしてきている気がして、すごく話しやすい。自分の助けになってくれるのではないかという期待感がある(20代前半)
- 今日のヒアリングは、知らない大人であっても、この場所(若者自立支援ルーム)に来てくれたことや、こども家庭庁から来た人のため「分かっている人」だと思ったので、大丈夫だった(20代前半,2人からの意見)
- この場所(若者自立支援ルーム)で、4~6人くらいの人数でのヒアリングはちょうどいいと思う。安心感もある(20代前半)
- 聴きたいというスタンスだったら、「聴きに来てほしい」と思う。「行く」というのは違うと思うし、中立的な場所があればいいのかもしれないが、ピンとこない。(20代前半)
- ヒアリングの機会があれば、自分はあまり意見を言えないかもしれないけれど、他の人の声を聴いてみたいので参加してみたいと思う。(20代前半)
- (ヒアリングの場には、よく知らない人がいても大丈夫かという質問に対し、)知らない人が、若者だったら大丈夫。大人は嫌だ(20代前半)
- 色んな人がいる環境でヒアリングをする場合、似た境遇の人がいると心強いし、話しやすい。半分以上はいてほしいと思う。(20代前半)
- ヒアリングの場は全員が若者自立支援ルーム(ヒアリング先施設)の人であってほしいと思う。今日みたいに知らない人に自分の話を聴かれるということに躊躇してしまう。知っている人だったら聴かれても大丈夫かな?と思える(20代前半)
- (ヒアリングの場に普段から接している支援者(スタッフ)がいる方がよいか?という質問に対し、)スタッフがいると安心感がある。言葉に詰まったときに意識してくれる(フォローしてくれるから)いてほしいと思う。(20代前半)
- (ヒアリングの場に普段から接している支援者(スタッフ)がいる方がよいか?という質問に対し、)関係ない。(20代前半)
- よく知らない人だと、失礼がないように、踏み込みすぎないように気を付けて話すことになると思う。(20代前半)
- 友達であっても「言える人」と「言えない人」がいた。母親に、「言えない人は恐らく、心の

中であなたを馬鹿にしているのではないか」と言われ、自分もそうなのかもしれないと思った。そういった気持ちがきつと感じ取れていたのだと思う。(20代前半)

- 学校の先生は怖く感じてしまう(20代前半)
- 学校の先生というだけで身構える(20代前半)
- 知らない人に「なにいつてんだこいつ」と思われるのがすごく嫌なのだと思う(20代前半)
- (ヒアリングの場には、よく知らない人がいても大丈夫かという質問に対し、)僕は「ちょっと(嫌だ)な」という感じ。警戒してしまう。(20代前半)

【どのような方法(オンライン/対面ヒアリング、チャットなど)や問いかけがよいか】

- 聴く側も、聴きたいことを少なくしてでも時間に余裕を持ってほしい(20代前半)
- Twitter(X)などのSNSで意見をいうことはあまりしない。攻撃されそうで怖い。(20代前半)
- SNSで意見を言うことは楽だが、表情が見えずコミュニケーションができないからあまり好まない(20代前半)

【その他気を付けてほしいこと】

- 家庭問題のテーマである場合については、自分は参加できるが、(社会に馴染めていない人の中には)行けない人も多いと思う(20代前半)
- フィードバックはほしい。それを知りたいために協力している側面もある(20代前半)
- 若者は未来に期待できない状況にあるので、途中経過を知ることができるだけでも、自分の意見が取り扱われているのだなど、安心できる(20代前半)

【問題意識を持っていること】

- 校則について先生に意見を言うと、教員から反発があるし、校則に不満を言っていたはずのクラスメイトからも「お前なに言ってるの?」と言われる(20代前半)
- 自分にくせ毛なのだが、「パーマ禁止」の校則があるため、先生に詰問されることが多々あった。一人の先生に事情を説明しても、別の先生には伝わってなくて再び詰問されることもあり、嫌な気持ちになった(20代前半)
- 意見を言うことで、よい方向に変化が起こるメリットへの期待よりも、自分にとって悪い方向に働くデメリットの方が大きいから、意見を言わずらい(20代前半)
- こどもと家庭を切り離して扱ってほしい。自分は家庭の問題があるので特にそう思うのだが、こどもの問題を家庭を通じて解決しようとするのが馴染まないことも多いはず。(家庭から逃げたいこどももあり、「家族」を守るよりも「こども個人」を守ることを優先する必要もあるという意味で、)家庭内にフォーカスされているこどもではなく、ひとりの大人としてみてほしい。(20代前半)

- こどもは保護すればいいとかそういう問題ではなく、実態にきちんと目を向けてほしい(20代前半)
- やらされている感のある教育がよくない。学ぶことで何ができるようになるかがわかるような、期待感を持たせる教育が必要だと思う。(20代前半)
- (自分は異なるが)居場所がないから意見を言う機会が失われているひともいると思う。どちらかという、その方が多数派ではないか。(20代前半)
- アルバイトでは、中卒だと時給が安い。同じ仕事をしているのに中卒だからといって時給に差がでることに違和感がある。障害者雇用先も少なすぎると思う(20代前半)
- 「昔はよくなかったけれど今は更生した人」に厳しい社会だと思う。特に最近は SNS などのデジタルタトゥーが残ってしまうことが、本当に怖い社会だと感じる。(20代前半)
- 「生きづらさ」を感じたことがない若者の方が少ないと思う。どうせ変わらないといって、将来に夢を持たないこどもが多いと思う(20代前半)
- 学校などでみんなでディベートするというような経験の機会が足りていないことが問題だと思う。だから、言っているいいことと悪いことの区別もつかず、SNS の使い方も間違っている人が多いのではないか。学校では SNS での誹謗中傷はダメだという事を一切そういうことを習わなかった。(20代前半)

(3) ヤングケアラー

【意見表明の体験】

- 政府や自治体に意見をしても、高校生である自分の意見が通るとは思えなかった。また、なんとなくだが、意見を言うことに「申し訳ない」という気持ちもあった。(高校生世代)
- 自治体に何か意見を言ったときに、「政策が変わってくれる」とは思えない部分があった。意見を伝える媒体がどのようなものであったとしても、まず前提として「意見を受け止めて変わってくれる」と思えるようなことが必要だと思う。(20代前半)
- 政治家にヤングケアラーについて意見を伝えた際に、「関係ない」という風な受け止め方をされた事があった。政治家は話を聴いてくれると思っていたため、結構ショックだった。多くの方はヤングケアラーについて、知識も乏しく、あまり興味がないのだと思う。(高校生世代)
- 介護やケアについて友人に相談した際に、話を逸らされた経験がある。恐らく、介護やケアの話題は、複雑で高度なテーマだから逸らされたのだと思う。(20代前半)

【聴く側の体制や場所、環境】

- ソーシャルワーカーは、接し方や表情などの点で、当事者(ヤングケアラー)への接し方が上手いと感じる。ソーシャルワーカーが身近にいる環境があるとよいと思う。(高校生世代)

【どのような方法(オンライン/対面ヒアリング、チャットなど)や問いかけがよいか】

- ヤングケアラーは、ケアをしながら参加してもらうことが想定されるため、外出が難しい人も多いと思う。その点で、オンラインのヒアリングという点はとてもいいと思う(20代前半)
- SNS やチャットなどテキストベースの方法は相談しやすい。最初は手軽さがとても大事だと思う(20代後半)
- 手軽なラインやSNSは相談しやすい(20代前半)
- 配慮していただけることはありがたいが、一方であまりネガティブに捉えられるよりは、ポジティブに捉えてほしい。(高校生世代)
- ヤングケアラーと自称しなくても、家族などのケアが必要なこどもに対して、きちんと向き合う、話を聴く姿勢が必要だと思う。(支援者,元ヤングケアラー)
- 一見、突拍子のない話でも大人が向き合う姿勢や聴いただけで終わらせないという事が大切だと思う。(20代後半)
- 意見を言う際の心理的安全性がとても重要だと思う。自治体がこども・若者に話を聴く際、時間が限られているため、テーマに沿った内容だけを聴いてしまうのではないか。しかし、こどもに安心して話してもらうためには「話が逸れても大歓迎」という姿勢が重要だと思う。(支援者,元ヤングケアラー)

- そもそも、誰かに相談するという経験がない子どもが多いと感じる。人に話す経験を積み重ね、子どもを認め、大人との信頼関係ができることが大事だと思う。「結局話しても無駄だった」といった、無力感を与えないように注意してほしい(20代後半)
- オンラインのヒアリングは参加しやすい反面、自宅にしか環境がないことが多い。経験上、話し声がケアをしている祖父に聞こえてしまう、あるいは母親に聞こえてしまうことで、躊躇することがあった(20代前半)
- こどもの本音は安全安心な場所だからこそ出てくると思う。オンラインの相談では、家の中は「隣の部屋におじいちゃん、おばあちゃんがいるから喋れない」という声もよく聴かれる(20代後半)
- 家族をケアしていることを「哀れみ」や「かわいそう」といった表情をされると、あまりいい気分がしない。(高校生世代)

【その他気を付けてほしいこと】

- ヤングケアラーにヒアリングする際、介護者と被介護者の関係性も考慮すべきだと思う。関係が良好であれば、自宅でのオンラインヒアリングや、(家族と相談して)外出時間を捻出するようなこともできると思うが、関係が悪いとヒアリングに応じる機会が作りにくいのではないかと(高校生世代)
- ヤングケアラーに意見を聴くという取組においては、対象を絞って当事者にアプローチすることも重要だと思う。例えば、貧困などとも相関があると思う。(高校生世代)
- 相談時間について、全日制の小学校、中学校、高校に通っていることに関しては、土日に加えて、平日は9時から17時は学校があり、部活も18時までであったりするので、それ以降の時間帯にできるとよいと思う。(20代後半)

【問題意識を持っていること】

- ヤングケアラーからは、学校や家庭でつまづいている声がよく聴かれる。例えば、「お父さんとお母さんが早く離婚してほしい」や「学校の先生が全然話を聞いてくれない」、「宿題ができなくて結構怒られてしまった」などの声が聴かれる。子どもたちは家の問題を家でしゃべることはできないし、学校の問題を学校でしゃべることはできないので、悩みを相談する相手がいることが大切だと思う(20代後半)
※その後のメールで、当事者から寄せられる声として、「相談窓口に行きたい」「家事代行して欲しい」ではなく、「楽しいことがしたい」「センターに毎日行きたい」「お泊まり会をしたい」などがある。普段のケアによる多忙さから体験活動の欠乏がある」と伺った。
- 自分自身のように、「ケアは日常であり、現状は辛くない」と思っている人が結構いると思う。そして、歳を重ねてから、「あの時は辛かったな」と振り返るのだと思う。(高校生世代)
- 「ヤングケアラー向けの居場所」を用意したとして、そもそもヤングケアラーの定義が定

まっていないので、ヤングケアラーかどうかの線引きをしなければならない。そうではなく、全ての子どもが参加できる居場所の中で、ソーシャルワーカーやカウンセラー、話を聴いてくれる大人がいる場所が望ましいと考えている。(20代後半)

(4) アクセスの難しい地域に住む子ども・若者

【意見表明の体験】

- 自分の場合は、母が小学校の先生であった。小学校の時に児童会をやっていた。そのため、地域の子ども向けイベントの情報を学校や親から聞く機会が比較的多かった。個人的には、情報を得ることや意見を表明するということに、機会が少なかったということではなかった。ただし、情報は手に入れていたが、行くことができずに、機会を失うことが多かった。
- 夏休みや休日にイベントや催しがあったとしても、会場が都市部(車で1-2時間程度)になってしまうため、子どもだけで行けず、興味があっても参加できないことが多かった。
- 住んでいた町は、電車も半日に1本とかで、バスもあったが、小学生で1人は難しかった。アクセスの悪さも相まって、小学生のときに、意見表明の催しやイベントについて情報を手に入れたとしても、行くことができずに、機会を失うことが多かった。

【聴く側の体制や場所、環境/どのような方法(オンライン/対面ヒアリング、チャットなど)や問いかけがよいか】

- アクセスの難しい地域に住む子どもから話を聞く場合、地方に出向くのも一つの有効な手法。各地域の自治体の人たちが学校に出向いたり、連携して時間を確保したりするのが現実的な手法だと思う。
- 地方の学校でもオンライン環境が浸透した一方で、山奥に住んでいる子はネットが通じていない子もいる。電波が届かないため、オンラインで意見をいうこともできないと感じる。
- 地方には限らないが、意見表明の機会や催しがあっても、そもそも興味関心が無い子も結構いた。
- 情報が届き、興味を持っていたとしても、アクセスが悪いことによって、めんどくさい、どうせ参加できないと片付けられてしまう場合もある。
- どのような手法を駆使したとしても、参加したいという意識がないとそもそも参加しない。機会が与えられたとしても何を言えばよいのだろうかと思ってしまう。自分事と捉えられるテーマ設定と、テーマについて理解を深めるための情報提供が重要だと考える。
- その点でいえば、国や地方の行政の方が出向いていただいたり、学校の生徒会や児童会で意見表明の機会を設けたりした方が、確実に意見を言う機会が増え、言いやすいと思う。

【その他気を付けてほしいこと】

- 言葉で傷ついた経験はある。「あまり発展していない」や「田舎」、「僻地」などの言葉を直接言われると馬鹿にされた印象を受け不快に思う。

【問題意識を持っていること】

- 地方の中心部に、こども向け みんなが集って勉強できるスペースができた。利用したいと思うが、片道1時間かかるため全く利用ができていない。
- 都市部の子と高校時代に関わるようになり、夜に塾に行ったり、休日に美術館やスポーツセンターなどの施設を頻繁に利用していた話を聞いて羨ましいという気持ちをもった。コミュニティの外にでて、自分が置かれていた状況の課題点に気づくことは多い。
- オンラインの発達だけでなく、交通網が発達するのが一番うれしい。身をもって経験したり、対面で人と話し合ったりする方が、より意欲や興味を高めることにつながると思う。電車は難しいにしろ、介護センターの送迎システムのようにこども用タクシーなどがあると良い。移動が親頼りになってしまっていて、親の都合に左右される。

3. 意見表明の手法の選択肢が限られていることから受け止める側も聞くための工夫が特に必要なこども・若者

(1) 障害児

【意見表明の体験】

- 原爆や戦争について勉強したいから、広島に旅行に行きたい。前に長崎に旅行に行ったときに、もっと知りたいと思った。おじいちゃんに連れて行ってほしいと言った。(中学生)
※支援者注:興味のあることややりたいことは、結構意見を言ってくれる(支援者)
- いじめの話などは、学校の先生には言えない。いじめた本人に伝わって、本人と次会うときに気まずくなってしまう。(小学生)
- 体育は基本やりたくない。やりたい時もあるけどやりたくない時もある。やりたくない時は先生に言えないから、バレないように、見えないところでやり過ごしている。やりたくない先生に言ったら、嫌な雰囲気になるからあまり言いたくない。(小学生)
- 階をまたぐ移動が大変。しかし、学校にはエレベーターがない。学校で4階で遊びたい時でも、先生に連れて行ってほしいとは言えない。言えない理由は、周りに人がいるから恥ずかしくて言えない。先生が男の人だからおんぶされることも恥ずかしい。(小学生)
- 学校の先生に事前に「体育を見学させてください」と言ってあっても、実際に体育の授業になったときに、「このくらいならできるのではないか」と言われることがあって困っている。(口唇裂のため)声がこもるから、意見が相手にうまく伝わらないことが多い。このような経験が積み重なって、意見を伝える人を選ぶようになったのだと思う(親御様)

【聴く側の体制や場所、環境】

- 学校では、今の担任の先生は4年間同じ先生だから、よく知っていて話しやすい。知らない先生は、自分のことをわかってくれないから嫌だし、話しにくい。(小学生)
- 学校のことは、学校の先生よりも、全く知らない人に意見を伝える方が抵抗は少ない(小学生)
- 知らない人であっても、今日のように、「こどもの意見を聴く」というテーマがあって、こどものことを分かっていると感じる時は、意見を言いやすい(小学生)
- 知っている人や先生が近くにいて、助け船を出してもらおうほうが嬉しい(中学生)
- (自分のやりたいことや、やりたくないことを言いやすい環境は？という質問に対し)周りに人がいるところでは言いにくい。(中学生)
- 周りに人がいなくても、言えることと言えないことがある。(小学生)
- ヒアリングの時に一緒にいる人の年齢は、年下より年上の方が話しやすい。年上はあまり嫌なこと言わないと思う。(小学生)
※支援者注:学校の下級生は、身体が小さいことを言ってくる。同じ学年の子たちは、障害者であることを理由にバカにしたりはしないのだと思う(親御様)
- 一生懸命伝えているのに、自分の意見を大人が分かってくれないと思うことが結構ある。自分のことを知っている人だと伝わるけれど、知らない人だと伝わらない(小学生)
- 言いにくいことは内容によると思う。学校のことは学校の先生に言いにくいし、友達関係のことはお母さんに言いにくい。(中学生)
- 学校の先生に意見を伝えると、呼び出されるかもしれないのが嫌だ(小学生)
- いじめの話などは、学校の先生には言えない。いじめた本人に伝わって、本人と次会うときに気まづくなってしまう。体育の授業を休みたい」など、その人と直接関係ないような話の方が言いやすい。(小学生)
- そもそも知らない人と一緒に話し合いをすることは無理だと思う。(身体が小さいから)ずっと見られるし、視線を感じると思うから嫌だ。(小学生)

【どのような方法(オンライン/対面ヒアリング、チャットなど)や問いかけがよいか】

- (直接意見を言うよりも、手紙であればゆっくり考えてたくさん書けるから伝えやすい?の質問に対して)うん。他の人がいる場所だと、自分の意見が知られてしまうことがあまり嬉しくない(中学生)
- (LINE や SNS で気軽に意見を言えたら、言いやすいかの質問に対して)言いやすいと思う。後は電話とかも(言いやすいと思う)(中学生)
- 自分の悩みは知ってほしいけど、名前は出たくない。自分が「こういうことを言っている」と知られるのが怖い。話がおおごとになったら嫌だから、家でも言い出しにくいことはある。言ったことで、面倒なことになるくらいなら、言わなくていいやとなる(中学生)

- 学校でアンケートに答えることが結構ある。学校が好きですか？とか、勉強は大変ですか？など。そういったアンケートでも、名前を書くから本当のことは言いにくい。特にいじめに関するアンケートだと、名前がでるから答えたくない(小学生)
- 話しているときに「何を言っているんだ？」という表情をされると、言いにくい。(中学生)

(2) 医療的ケア児

【意見表明の体験】

- (様子)インフルエンザワクチンを打つ際、姉妹で、全く気に留めていない様子で注射だと分かっており、怒って泣いている様子の違いがあった。二人とも体を起こすことは難しいが、マットの上でよく動いていた。ばねのようなおもちゃが好きでずっと左手で動かしていたり、動くのが好きだそうで、調査員2人を身体を動かして眺めていた。
- 家では靴下をはかず、顔を洗うのを嫌がり、歯も磨かなかったが、特別支援学校に行き始めてから靴下、洗顔、歯磨きも嫌がらなくなった。また、表情が豊かになってきて、家でもよく動くようになった。以前はほとんどマットレスから動かなかったが、家中を背ばいで動くようになった。気づくと足元に来ているので、抱っこしてほしいのかなと思って抱き上げると、手足をバタバタさせて喜ぶということが増えた。

【どのような方法(オンライン/対面ヒアリング、チャットなど)や問いかけがよいか】

- 8年一緒に過ごして、ようやく表情で気持ちを判断できるようになった。いやなことは表情で上手く表現できるが、嬉しい、楽しいという感情は、普段から関わっている人でないと読み取るのが難しい。
- 心拍を測る機械で反応が分かる。これであれば、初対面の方でも反応を把握することは可能である。
- 発語がないため、希望を聴くことはできない。旅行先を決めるとき等も、親が行きたい場所に行き、その後の反応で好きか嫌いかを判断することが多い。
- 視線で感情を伝えてくれたり、視線を動かすことで、「うんうん、わかっているよ」と言っている。こともある(支援者)

【問題意識を持っていること】

- 空港で、飛行機に乗る時は抱っこしないといけないと言われた。20kg 近いこどもを長時間抱っこして東京まで移動することは難しい。
- どこかに行く場合は、バギーを対象としている施設はほとんどないため、事前に行先を入念に調べて決めなければならない。医療的ケア児が利用できる施設をまとめたサイト等を作成してほしい。
- バギーで行ける場所でないといけないため、旅行先を選ぶのも大変である。おむつを替える必要があるため、専用のトイレが必要だが、赤ちゃん用の台では小さすぎる。

- 医療的ケア児でも、勉強ができる子もいる。そのような子は、特別支援学校だと話が合わず友達ができないという悩みがあるそうである。高校は普通学校に行くと言っていた。
- 行政手続きについて、毎年必要な手続きは窓口のみであるため、Web でできるように整備してほしい。●●(支援者の施設)に通っているので状態が変わらないことは明らかなのに、窓口に行く必要がある。平日 19 時まで空いているのは木曜のみであるため、有休をとらないと手続きができない。
- 兄弟が学校で熱を出すと親が迎えに行かないといけませんが、医療的ケア児を一人にするわけにはいかないので、夫が会社を休んで迎えに行く必要がある。こどもの付き添いや手続きで有休がなくなってしまう。
- 生活の中での大変さを行政職員にも車いすを動かす、医療的ケア児を抱っこする等の体験してもらい、行政職員が変えられることを自分達で探して提案してほしい。
- 高齢者の介護認定のアセスメントのように、相談専門支援員が訪問して支援員の経験や力量にかかわらず、一定の基準で状態を判断し、それに基づいて利用できるサービスが決まっていると、利用者も分かりやすいし、相談専門支援員もサービスを紹介しやすい。現状では、こどもの状況を親や相談支援員が説明することによってサービスが決まるため、うまく説明できない場合、こどもが困っていることを行政は把握できない。
- ネブライザーの手続きを行政窓口で頼んでも、何のためにネブライザーが必要なのか伝わらない。介護保険は必要な理由まで伝わっているのに、差がある。
- 3 年程度で行政職員が異動すると、障害児の状況を知っている人がいなくなる。また、医師の介入が強く求められるが、医師の中にも生活状況まで把握する人と治療の範囲で対応する人がいる。介護保険のような仕組みがないため、出会う医師や行政職員によって利用できるサービスは影響を受ける。
- 親の方が制度を知っていることもある。知識のない行政の方が何らかの決定をされることがある。親が把握している情報を担当課の方が知らず、サービスが使えないと言われ、他の課にもつないでもらって親の知識が正しいことが分かったこともある。

(3) 外国人のこども・若者

【意見表明の体験】

- 先生と話すことはあまりない。両親には勉強が嫌いだと言う事がある。(中学生)
- 家ではずっと日本語で話している。弟は日本語が上手く、お母さんともずっと日本語で話している。弟とお母さんの会話で時々なんていっているのかな?となる。でも、「何と言っているのか教えて」とは言えない。日本語ができないと怒られる。(中学生)
- テストで英語で書いても、答えはあっているのに英語だから×を付けられ、E+(低い評価点)をつけられたこともある。英語で採点してほしいと先生に伝えたら、A+(高い評価点)になった。英語をわかってくれる先生もいる。(中学生)
- テストは、本当はひらがなでの回答も許してほしい。でも漢字で書かないと減点する先

生がいる。先生に言いたくても、何度も言うと怒られるから言えない(中学生)

- 国語の勉強とかで、分からないことは先生に言っている。先生も教えてくれる。日本語は同じ漢字で読み方や意味が多いから難しい(中学生)
- 漢字がわからない時に先生には言えるけれども、家で両親に言うとき「なぜわからないの?」と怒られるから言えない。(中学生)

【聴く側の体制や場所、環境】

- 家ではネパール語で話すからお父さんお母さんに言える(中学生)
- 学校ではネパール人の友達が 2 人いて、日本語を話すのを手伝ってもらっている。1人より友達の方が話しやすい(中学生)
- 学校の友達とは日本語で話す。でも、友達にイギリス生まれの英語ができる日本人がいて、英語で話している。その友達は、日本語を翻訳して先生に伝えたりしてくれるから助かっている(中学生)

【どのような方法(オンライン/対面ヒアリング、チャットなど)や問いかけがよいか】

- 翻訳アプリを使っても「自分の気持ち」を翻訳して伝えることは難しい(中学生)※支援者注:抽象的な「気持ち」や「感情」を聞かれると、日本語で答えるのが難しい。日本語学習において、実用的な言葉を先に学ぶ。気持ちや感情についての表現は後から学ぶため。(支援者)
- グループヒアリングでは、テーマやどういうことを聴くのかを決めて聴くと、他の人が答えている間に考える時間ができる(支援者)
- 翻訳アプリをよく使う。翻訳アプリで話すと、日本人と話しやすくなる。翻訳アプリを使ってほしいと伝えるのも難しい(中学生)

【問題意識を持っていること】

- 日本語を使って学校の勉強をしたい(気持ちはある)。数学とか理科とか国語とか、作文はどうやって書くかとか。だけど、テストの問題文が日本語だから、問題文を読むことが難しい。英語ならできる(答えがわかる)のに、問題の答えを英語ならわかっても日本語で答えるのが難しい(中学生)
- 日本人が英語を喋れない。(中学生)
- 日本語がわからない時は英語で話している。勉強も英語ならわかるけど、日本語で書けない。(中学生)
- 日本語で話していて、時々日本語でわからない単語は翻訳アプリを使っている。学校の授業中に翻訳アプリを使っていると(先生が)言っていたから、毎日使っている(中学生)
- ネパールと日本の学校での教え方も違う。ネパールは「暗記(覚えること)」が多い。日本は「練習問題(practical)」が多い。(中学生)

- テストで英語で書いても、答えはあっているのに英語だから×を付けられ、E+(低い評価点)をつけられたこともある。英語で採点してほしいと先生に伝えたら、A+(高い評価点)になった。英語をわかってくれる先生もいる。(中学生)
- 学校ではスマートフォンは持ち込みできないから、(学校配布の)タブレットで翻訳している(中学生)
- サッカーは好きだけど、日本では勉強を頑張らなきゃならないからできていない。サッカーはほんとはやりたいと思う。学校の休憩の時にやる。もっとサッカーをやりたくてもお母さんとお父さんに「なんで？もっと勉強がんばって」と言われてしまう。(中学生)
- 電車やバスで行先とかを日本語で読むのが難しい。翻訳アプリを使う(中学生)
- 学校の英語のテストでも日本語がある(問題文や回答に日本語で答える必要がある)(中学生)
- ネパールではテストも 97%くらいとっていて、成績が良かった。日本に来たら、日本語がわからないから勉強が難しい。だから、勉強したくないと思ったことがある。(中学生)
- 高校受験を日本人と同じようにしなければならないから大変(中学生)
※支援者注:高校進学について、日本社会における高校入試が一番辛いところ。また、当事者の親は、部活や修学旅行などの日本の学校の文化やルールのようなものへの理解があまりないことが多いことも、学校における困難である(支援者)
- (日本語が難しいから)学校でわからないことはあまり言えない。「ここがわからない」とわからない箇所を言葉(日本語)で伝えるのが難しい。わからない箇所は先生から気が付き教えてくれる(中学生)

4. 意見を言うことが安全・安心でないなど、意見を言う環境に特別な配慮や工夫が必要なことも・若者

(1) 社会的擁護の下で暮らすことも、社会的擁護経験者/経済的に困難な家庭のことも・若者 /虐待を受ける、または受けたことがあることも・若者

【意見表明の体験】

- 現在、職場では、若手ということもあり、意見をいっても通らないので特に意見を言う機会はない。職場内で仕事のルール決めは年功序列でされている感覚がある。また、女性職員の中では意見を言うことができるが、女性の割合が少ない。例えば、女性用トイレの数が限られている状況に仮設トイレの設置の声をあげたが、実現まで 2 年かかっている。女子更衣室で内部犯による盗撮事件が起こったときは、事件後の対策については「鍵をつけてほしい」と具体的に要求した結果、対応してもらえた。たとえ被害にあっても言わないとやってくれないという経験をした。
- 過去に児童養護施設では、施設の自治会議で「スマホを持ちたい」という要求をして意見を言い、実現した経験がある。意見を言えば、可能な限り対応してくれる施設だったと感じている。たとえ希望する対応が無理な状況でも、別の方法で何とか対応できない

かと考え、動いてくれていた。

【聴く側の体制や場所、環境】

- (こども施策等で行政職員から意見を求められた場合、どのような状況や場だと意見を言いやすいかという質問に対し、)自分のホームグラウンドで話している状況は理想的。
- ただし、個人の成育歴にもよるので、事前に聞く対象に対してどんな環境なら話しやすいか、お店やカフェがいいのか等、具体的な選択肢を提示し、確認してもらえると良い。
- 例えば、(かつて家族から様々なテーマで食卓を囲みながら責められた経験のある子で、食卓を囲んで話すこと自体にトラウマを抱えていた子は)ホームグラウンドだと話しにくいという。お店など、外出先の方が他人の目が有り、監視カメラがあるので親が自制する効果が期待できて安心して話せる子もいると思う。1対複数で同じ机を囲む状況が無理だという子もいた。
- 知っている存在が同席し、自分のホームグラウンドで話している状況は理想的。知らない場・知らない人からの連絡は怖い。
- 児童養護施設にいたとき、自治会議で声の大きな子が発言すると反対意見を言えないこともあった(集団生活なのでうまくやっていくしかないと思っている)。また、この場合は施設の先生が同席してくれている方が安心して意見を言いやすかった。
- 中学生の頃、児童養護施設の自治会議は、当初施設の先生が同席していたため、「同席されることで施設に対しての要望や不満を言えないため、数分でも良いので退席してもらえないか」と意見を言ったところ、対応してもらえた。以降、先生がいると言いにくいテーマについては先生に席を外してもらうことで議論することができた。
- 話す側が複数だと話しにくい。特に施設経験者は話を聞いてほしい欲求があるので、複数人だと特定の人だけが話をしてしまう状況になり、「なぜ私の話を聞いてくれないのか」と不満が出る可能性がある。

【どのような方法(オンライン/対面ヒアリング、チャットなど)や問いかけがよいか】

- 具体的な選択肢や解決策を複数見せてもらい選べると良い。施設に入所するまでは自分で選ぶという経験がなかったため、「自分で選んでほしい」という言葉が怖かった。自由といわれると動いて怒られないか等、色々考えてしまって分からなくなってしまうので、考えるヒントをもらえると良い。
- 小学3年生のころ、学校でアンケートが配られた際に、自分の置かれている状況(暴力を振るわれていた状況)を書きたかったが、アンケートは提出前に保護者に見せて印を押さなければならなかったため、「普通」と書いた。アンケートについては、アンケートがあったこと自体も親に伏せてほしい。

【その他気を付けてほしいこと】

- 意見表明時に、相手の思い込みと善意の押し売りによって嫌な思いをしたことがある。
- 担任と進路相談をした際に、ざっくりと成育歴を話したところ、「かわいそうだったね」と泣かれてしまった。そういった反応を望んで説明したわけではなかったため、距離感を感じてしまった。これのきっかけに間違った方向の善意を押し付けてくる状況が続いた。児童養護施設のこどもが不幸という思い込みのもと、対応をされてきた。「虐待されたから辛い・かわいそう」で理解が止まらないでほしい。
- 個人によって差はあるものの、施設で育った場合ほとんどが自分の話を聞いてほしいという気持ちが強い傾向にある。
- 同じ施設で育っていても、思っている内容は個人によって異なるので、複数人を対象に意見を聴いてほしい。

【問題意識を持っていること】

- (施設で育つと)ある程度の常識すらないと感じている。例えば、中学卒業までお金を持ったことが無く、使い方が分からないまま施設に入所した。社会に出て初任給などまとまったお金を手にしたのは初めての経験で無敵の気持ちだったし、額の違いからだからこそ使いすぎてしまった(使って良い上限が分からなかった)。高額でも話を聞いてくれるホストに簡単にハマってしまったり、お金の使い方が分からない子も多い。
- 施設では、希望すると買い物へ同行できるが、希望しない場合は同行しなくてよいため、(特に幼少期から施設にいと)生まれてから退所まで一度も買い物に行ったことがない子が出てくる。自分でスーパーに行ったことがない子は買い物をしようにも何を買うべきかや値段の相場が分からず、旬の野菜や食材ごとの保存等の知識もない子が多い。自分も野菜の扱い方が分からず、困ることがあった。
- 退所後は施設職員と連絡を取ってはいけないという決まりがあり、施設退所後に頼れる人がいない。(※本ヒアリングに協力いただいた方がいた児童養護施設の場合)。このような状況の中で、●●(支援者の施設)の存在は大きく、●●(支援者の施設)がいなければ仕事を続けられなかったと思う。話を聞いてくれるだけで本当にうれしかった。話すことができ、コミュニケーションをとって笑うことができる。施設を出て一人で関係構築していく際には、どこまで話したらよいかという悩みがあるが、すでに自分の事情を知ってくれているのもありがたい。
- 当時、進学希望があったが、公立の施設だと職員が異動してしまうこともあり、保証人等が用意できなく、奨学金が借りられない状況があるため、暗黙の了解で就職しか選択肢はなかった(親とある程度良好な関係にある子は親から支援を得ることができる)。

(2) 性的マイノリティのこども・若者

【意見表明の体験】

- 通っていた学校は、高校までスカートしかなかった。(恐らく性的マイノリティの)友達が、痴漢の被害軽減の意味においても、スラックスの導入が必要だと言っていて、実際に教頭先生や生徒会と掛け合った。学校側は、あまり LGBTQ への配慮という立場はとりたくないといった態度であり、あくまで痴漢対策の意味においてスラックスを履いてもよいという制度が導入された。スラックスの中でも男女のデザインの違いがあるにもかかわらず、どちらも選べるような考慮はされなかった(男性用のスラックスを女性が履いてもよい、という制度にはならなかった)。(高校生世代)
- 中高一貫であったが、最初からずっと制服が嫌だった。最初はコロナでオンライン授業だったので、学校に行かないため先生との関係を築くことや、言う機会もなかった。中2の後半から毎日登校になり、よく話す先生に実は制服が嫌だという話をしたが、「(制服に関する)校則を変えるためには、3年はかかるだろう」と言われた。自分が学校にいる間は変えられない。自分は今嫌なのに、「そんなこと言われてもどうすればいいのか…」という気持ちになった。中3の終わりの方にも別の先生に言ってみたところ、その先生は学校に働きかけてくれた。合唱コンクールと卒業式の時に制服を変えて出たいという気持ちがあったので、それに合わせて、校則を変えてくれた。(高校生世代)
- 先生に最初に相談するときにはかなり苦勞をした。相談の「言い方」についても●●(支援者の団体)と話し合ったりした。先生は授業が終わるとすぐに他の教室に行ってしまうし、職員室でも相談しにくく、言うタイミングが難しい。実際に相談した際には、別室で時間を設けてもらった。(高校生世代)
- 自分の親には、先生と一緒に、学校でカミングアウトした。その時はやはり一人ではなくて先生がいてくれてよかったと思った。学校とか家で嫌なことがあっても、学校にこのような仲のいい先生がいたことでいつも相談できたことはとてもよかった。(高校生世代)

【聴く側の体制や場所、環境】

- (性的マイノリティであることを)授業とかでトランスジェンダーについて、ちょっとした場面で紹介をしていたり、授業の中で触れていた学校先生は、「(LGBTQ の知識を)知ってくれているのかな？話が進みやすいかな？」と思ったので相談できた。(高校生世代)
- (高齢の先生よりも)30代とか、年齢的に近い人の方が言いやすいと思う(高校生世代)
- 「大人との距離感」で相談のしやすさや言いやすさも変わってくると思う(支援者, 当事者)
- 自分から省庁や自治体に出向くのは、権力や(マイノリティである点で)数的に不利なので抵抗感がある。数名で話を聴きに来てくれるという機会は話しやすい。(高校生世代)

- 自分が好きで着ている男の子っぽい服に対して、年配の先生は「なんでそんな味気ない服着ているの？」とか言ってくることがある。価値観のような部分は、年配の先生とは合わないかな？と思ったし、相談しようとも思わなくなる(高校生世代)
- 家族にも好きな異性とか、どういうタイプなのかとか、家族3人から数的不利な状態で聴かれる。仮に話す相手が LGBTQ に理解のある人であっても、数で圧倒されてしまう感じがして辛かった。(高校生世代)
- 参加者がみんな LGBTQ の場や、カミングアウトしている人同士の場であっても、(知らない人がいると)やはり難しいと思う。怖さがある。(高校生世代)

【どのような方法(オンライン/対面ヒアリング、チャットなど)や問いかけがよいか】

- 性に関する悩みを聴く活動を、オフラインからオンライン相談に切り替えた時には、自宅から接続すると家族に聴かれるから話にくいという声が聴かれた(支援者,当事者)
- (家では)親がいるから普通の声の大きさでしゃべることに抵抗があり、話にくいと思った。電話とかは難しいから、メールや LINE で相談する手段があるといいと思う(高校生世代)
- 夜とかにオンラインや電話で話す時も、寝ている親に聞こえたら嫌だなと思って安心して話せないと感じる。オンラインでも安心して話せる場所が必要だ思う(高校生世代)
- 意見を言うときに匿名性はとても大事だと思う。学校には意見ボックスがあり、紙に書いて匿名で意見を伝える機会はあるが、ボックスに入れているところを誰かに見られるのが少し嫌だ。オンラインの手段で匿名で意見を言えるのが一番言いやすいと思う(高校生世代)
- 学校の授業でパブリックコメントを出した際には、匿名でオンラインだったので出しやすかった(高校生世代)
- 悩んでいるときは、先生に「悩んでいることがあるから、聴いてほしい」と相談することもある。今年4月から東京都が Teams で運用するアプリ(コンディションレポート)で学校に体温・体調を報告しており、加えて「相談しようとしていること」に「はい/いいえ」をチェックする欄で悩みがあることを伝えたこともある。アプリで「はい」と報告すると、ホームルーム後に悩みを聴いてもらう時間を設けてもらった。本当は直接言うのが苦手だが、テキストだと伝えるハードルが下がるので自由記述欄にしてほしい。ただ、自由記述の内容を伝えたい教員以外に見られたくはない(高校生世代)
- ヒアリングのテーマやタイトルにおいても、会議の目的が明確だと行きやすい(高校生世代)
- 「アイデンティティの集まり」は手段であって、ヒアリングを通じて何をやりたいのかを示してほしい(高校生世代)
- 集団のなかで LGBTQ について話す場があっても、相手がどう思うかとかを考えてしまうので、言いづらい。(高校生世代)

【その他気を付けてほしいこと】

- ヒアリングの場において、「意見を聴かれる人たち」や「特別な人たち」と分けられてしまうことに抵抗感がある。(高校生世代)
- 属性で区切って特別な人に対する配慮という捉え方は、自分にとっても相手にとってもよくない態度で接することになると思う(高校生世代)
- ヒアリングの場に行く時のドレスコードは事前に知っておきたい。スーツを着ないことでマナーに反する、敬意が足りないと思われて負い目を感じたまま参加したくない(高校生世代)
- 名前をフルネームで書く必要があるのかや、性別欄の必要性、参加人数なども気にしてほしい(支援者,当事者)
- LGBTQ という単語が出た時点で、みんなと壁ができる、全く異なる人種として扱われる感覚がある。SOGI という単語の方が、全ての人に関わる単語なので良いと思う(高校生世代)
- 行政に意見を出した後に返答が欲しい。そうでなければ「意味あったの?」と思ってしまう(高校生世代)
- 返答の時には、行政の現状の考えや、今後どういう風に進めていきたいのかなど教えてほしい。また、意見の実現が難しいのであれば、なぜ難しいのかもできるだけ示してほしいと思う。
- 「(LGBTQ を)特別な人たち」ではなく、「社会の一構成員」として、学校や社会で扱ってもらえたら嬉しい(高校生世代)

【問題意識を持っていること】

- よく考えず、安易に「LGBTQ フレンドリーにしました」として問題を片づけないでほしい(高校生世代)
- 中高一貫の女子高に通っていたので、男性が近くにいなかった。先生たちに「大学に行ったら悪い男にひっかかるなよ」などと言われた。目に見える男女区別だけではなく、「LBGTQ の存在がいるということ」を想定していないだろうなあ」と発言から感じられることが辛い。差別は構造的な問題であって、「差別しない」は特定の1つのアイデンティティに基づいて、攻撃をする、いじめをする、というようなことだけではないと思う。様々な人がいることを理解・認識して、その表明として「差別しない」という言葉をつかってほしいし、受け取りたい。(高校生世代)
- 体育の更衣室を使うのが嫌だったから、空き室を使わせてもらっていたが、部活の着替えでは空き教室を使うことができなく、多目的トイレもみんなが通るから使いにくく、仕方ないので更衣室を使っていた。部活は週3~4日あり、毎回嫌な気持ちになる。学校は、校則だけでなく、部活や着替えといった、学校や日常生活での行為についても、困っ

ているのだという事を想定してほしい(高校生世代)

- 思い返すと、小学生の時、男の子っぽい服が好きでそれを着て女子トイレに行くと、男子だと思われて追い出されることがあり、その時は凄く困っていた(高校生世代)
- セクシュアリティについて、誰もが(はっきりと)ビビットに言える人だけではなく、もやもやとしている人もいるという事も意識してほしい(高校生世代)
- 英語の代名詞で「She/Her」「He/Him」を使うのが嫌だった。「They/Them」を使って文章を書いても「She/Her」「He/Him」に直してくる人もいて、それを指摘することもしにくい。(高校生世代)
- 日本だと、一人称を「ぼく」「うち」「わたし」をどうするかや、「くん」「ちゃん」で呼ばれることについて悩む声はよく聞かれる(支援者,当事者)
- 家族が LGBTQ フレンドリーではないこともあるので、親に対して性的マイノリティに関する授業もしてほしい(高校生世代)
- 家の中でも言いにくくて悩んでいたことがたくさんあった。例えば、高校生の時に社会人がみんなスーツを着ていて、「将来自分もスーツを着られるのだろうか?」とか、「会社でお手洗いとかどうしているのだろうか?」など、仕事選びも制限された感じがあった(支援者,当事者)
- 就活でのスーツの着用などの「就活セクシズム」や入学式ではスカートをはく、といったことは嫌だった(支援者,当事者)
- 就活では、直接自分のセクシュアリティをオープンにして就活はできなかったのも、ひたすら会社見学や質問をして、少しでも働きやすい会社を探すしかなかった。例えばスーツを着る頻度や多目的トイレがあるかどうかなどで探していた。大学を卒業したら「会社員にならない」という選択肢しかないように見えていたので、困っていた。大学のキャリアセンターは、セクシュアリティも関係することまでは安心して相談できなかった。(支援者,当事者)
- 冠婚葬祭や成人式、七五三での服装も周りの大人に言われ、意見の数に圧倒されてしまい、本当は着たくない服を着るしかないことがあった(支援者,当事者)
- 日本は国民のアクションで何かを変えていけるようなムードがないし、そのような歴史もたどってきていないから、未来に向けた新しいアクションを起こすことが難しいと思う。デモをしても、「クレーマー」のように捉えられることが多いとっていて、声を上げにくい(高校生世代)

5. 言葉だけではなく、年齢及び発達段階に応じて、その意思(思いや願い)が多様な形で表れ、受け止める側も聴くための工夫が特に必要な乳幼児

【当事者ヒアリングで聴かれた声】

- 今日みんなに話を聴きに来ました。国ってわかる?(NTT データ経営研究所)

- アジアとか。アフリカ大国。インド。サウジアラビア。(みんな)
- 日本の国を良くしようとしている人たちがいます。日本の国をつくるために、大人たちが国をつくっています。ですが、大人だけだと、大人のことしか考えないから困ります。こどもたちのことも考えて国をつくるのが大事です。そのため、みんなが考えていることを教えてほしいです。
 - 自衛隊。自衛隊の服、パパが持っている。(Aさん)
 - こういうものがあれば人を助けられるとかそういうこと?(Bさん)
 - 昨日もやった。(Cさん)
- こういう聞き方をしたら話しやすい、ということがあるかを聴きたい。わからないことはある?(NTT データ経営研究所)
 - 知らない人たちが来たら緊張する?(こども家庭庁)
 - ちょっと緊張する。(Aさん)
 - 好きな人がいたら恥ずかしい。(Cさん)
 - 初めての人と会った時もお友達がいたら緊張しない。(Dさん)
 - 保育園に知らないお友達が来た時、どんな保育園にいたの?と話す。(Bさん)
 - はやくまちのことを話したい。(Cさん)
- みんなをどうしたら助けてあげられるかを聞かれたら、自分のきもちを言える?(NTT データ経営研究所)
 - こわい。緊張する。(Aさん)
 - 保育園の先生と一緒にいたら緊張しない?(こども家庭庁)
 - うん。(Aさん)
 - 先生は優しくしてくれたから緊張しなくなった。(Eさん)
 - 新しい人が来たら悪いことしないかなって緊張しちゃう。いい人だったら怖くない。やさしい人だったら怖くない。(Cさん)
 - おなじ。(Aさん)
 - 来てすぐにいい人かどうかわかる?(こども家庭庁)
 - わからない。(Cさん)
 - 昨日お話ししたまちのお話を聴きたいんだけど、どんなまちだったら素敵なまちかな、住んでみたいと思うかな。(先生)
 - 自由がいい。(Dさん)
 - なんでもできるのがいい。(Bさん)
 - 死んでもまた同じ学年で復活できる。(Aさん)
 - すごいな。やりなおせるってこと?(先生)
 - 車でぶつかっても死なないまち。(Bさん)
 - しんじょうとか危ないことにドキドキするの?(先生)
 - あとおばけがない世界がいい。ドキドキする。(Aさん)

- こわいのとか、ドキドキするのやだよね。(先生)
 - 夜にならないのがいい。(Eさん)
 - 地面にダイヤモンドが埋まってるのがいい。(Cさん)
 - 危なくなかったり、暗くなかったり、安全なのがいいの?(先生)
 - 地震とかも。(Eさん)
- なにがあったらそういうのが怖くない?なにがあったら安心する?(先生)
 - 未来が見えたら。(Aさん)
 - ミライドン(ポケモン)がいたら未来が見える。(Cさん)
 - キャラクターがいたらいいな。(Dさん)
 - ちいかわのハチワレ(キャラクター)がいたら、一緒にチャルメラ食べられる。(Bさん)
 - みんなの好きなものがいたらドキドキしないの。(先生)
- どうしたら危険がないまちになりそう?(先生)
 - 火事になったときにロボット式消火器があればいい。(Dさん)
 - どらえもんがいたらいい。(Aさん)
 - 水タイプのポケモンがいれば、火に水をかけて岩にしてその上を歩いて別の町に行けたらいい。(Cさん)
 - 火に水をかけて石になると火はこわくないね。(先生)
- Fちゃんは何?(先生)
 - 危ないものがないまち。(Fさん)
 - たしかに。(先生)
 - ナイフとか。包丁。のこぎり。木。動物。(みんな)
 - 木?(先生)
 - 木を触ったらとげがささるから。(Eさん)
 - 木がなくなったらみんなが好きな虫がいなくなっちゃうよ。(先生)
 - 虫嫌い!(Eさん)
 - ちょうちょうがすき。(Dさん)
 - もんしろちょうがすき。(Bさん)
 - 虹を持って帰りたい。高いところから落ちて水に入っても少しはダメージがない。(Cさん)
 - 月を家に持って帰りたい。(Bさん)
 - 月って家よりも大きかったら家に入らないじゃん。(Dさん)
 - みんなおうちに持って帰りたいものがあるの?(先生)
 - プールを持って帰りたい。(Cさん)
 - ホテルを持って帰りたい。(Aさん)
 - コンクリートの下に化石があるのを博物館にもっていったらお金がもらえる。(Cさん)

- お金持ちになりたい。(Dさん)
- 雲の上に寝っ転がりたい。(Fさん)
- 隕石が落ちてきて隕石を見つけたら博物館で飼う。(Aさん)
- 物知りになりたいな。(?)
- 博物館に内臓があったら見たい。(Bさん)
- 中野って博物館あるの?(先生)
- あるよ。ないよ。あるよ。(みんな)
- 今日はみんな自分の意見言えましたか。(NTT データ経営研究所)
 - はい。(みんな)
 - 会議みたいだった!(みんな)